

みんな小さな空の下プロジェクト

代表者 田 岡 宏 大 (工学部電子情報工学科 1 年)

1. 目的と概要

本プロジェクト事業は、日本と国交樹立 20 周年になるアルメニア共和国の大学に桜の苗木を送ることをきっかけとして、同じ地球の大学生同士で新たな出会いと交流を図ること、及び本活動を通じて参加学生の成長に寄与することを目的としてきました。今年度は、アルメニアの大学に桜の苗木を植樹すること、アルメニアの大学を訪問し互いの学校や地域の紹介を行うことを目標としてきました。

2. 実施期間 (実施日)

平成 24 年 6 月 1 日 から 平成 25 年 3 月 31 日まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

本プロジェクトでは、① SNS を用いての事前交流と打ち合わせの上、② 香川県と香川大学を紹介するビデオレターと情報冊子、③ サクラの苗木を持って、④ 学生 3 名が 12 月 10・11 日にエレバン言語大学に交流に行きました。以下、詳細について説明していきます。

(1) 事前交流会・勉強会

私たちは初めアルメニアについて何も知りませんでした。そのため、週に 1 回の打ち合わせの際に、事前にアルメニアについて調べ物をして集まり、勉強会を行ってきました。そして、交流イベントの日程とスケジュールを確認していくため、SNS を用いてエレバン言語大学の日本語教師の方と定期的に打ち合わせを行いました。また、その間にエレバン言語大学の学生と交流の機会を 2 回持つことができました。

アルメニアについての勉強会を行い、日常会話や挨拶、国の情勢や経済状況、風習について調べたことは、事前準備や交流の際の意思疎通に有効に働いたと感じます。SNS を用いた打ち合わせによって、イベントを行う上で確認しておきたいことを質問したり、スケジュール案を書類にまとめてメールで送ったりして、交流イベントの計画をつめていくことができました。また、SNS を用いて事前交流を行えたことで、お互いの顔を見ながら会話でき、交流イベントの準備に向けてお互いの意欲を高めることができたと思います。

(2) ビデオレター・情報冊子の作成

今回、互いに通っている学校や住んでいる地域について紹介するために、ビデオレター・情報冊子を作成することにしました。ビデオレターは主に高松市の紹介を中心として、私たち自身が高松市の紹介したいところを回り、ビデオに収めていきました。情報冊子は主に香川大学の年間行事の紹介を中心にしてレイアウトを考えていきました。

ビデオレター・情報冊子によって、交流イベントのときエレバン言語大学の学生たちに興味と親近感を持ってもらうことができたと思います。一方、私たちは自分たちでスケジュールを計画し、そのスケジュールを管理していくことの大切さと難しさを実感することができました。



『事前交流会（香川大学）』



『事前交流会（エレバン言語大学）』



『打ち合わせ・勉強会』



『ビデオレターの作成（香川大学）』

(3) 桜の苗木の手配

輸送方法の検討、輸入許可証の取得に当初の想定以上に時間がかかりました。結果として、当初の計画から1～2カ月ほど全体のスケジュールを後ろにずらすことになりました。サクラの苗木をアルメニアに送る方法としては、財団法人日本さくらの会より「消毒・包装済み無病苗」を検疫に通して、無料受託手荷物として渡航者が持っていく方法がよいと助言を頂き、その方法を採用しました。今回、無事にサクラの苗木をアルメニアに送ることができましたが、肥料や土壌改良剤などの準備が疎かになっていたことが大きな反省点でした。

(4) エレバン言語大学への訪問

12月10・11日の2日間、エレバン言語大学で交流イベントを行いました。初日は、初めての顔合わせということで互いに自己紹介、地域・学校紹介、シンポジウムを行いました。地域・学校紹介では、アルメニアの皆さんは日本語でアルメニアと学校について説明してくれました。私たちも製作したビデオレターや情報冊子を使って、私たちの地域や学校について紹介しました。その後、日本とアルメニアは、原発が稼働しており地震多発国であるという共通の背景を持っているため、「地震とエネルギー政策」をテーマに意見交換会を行いました。意見交換会でもアルメニアの学生の皆さんは積極的で、質問に対応しきれなかった部分も少なくなく、私たちの準備不足を感じました。そして、その日の晩は、アルメニアの学生の家にホームステイさせて頂きました。



『地域・学校紹介（香川大学）』



『地域・学校紹介（エレバン言語大学）』



『意見交換会（香川大学）』



『意見交換会（エレバン言語大学）』

2日目は、桜の植樹式から始まりました。次にダンスや歌で交流を行いました。アルメニアの学生たちが国のダンスや歌、日本舞踊も披露してくれました。私たちはアルメニアの学生たちと一緒にソーラン節を踊り、一緒に「世界に一つだけの花」を歌って交流しました。そして、最後に両国の料理を紹介しました。私たちはうどんともち、アルメニアの学生はトルマなどのアルメニアの伝統料理を作りました。準備が大変でしたが、現地の方に手伝って頂いたお陰で無事に作ることができ、みんなおいしいと食べてくれました。そして、もう一日ホームステイをさせて頂きました。

この交流によって、私たちは多くの人と知り合うことができました。今でも、FACEBOOKでアルメニアの人たちとのグループを作って情報交流を行い、関係を持っています。



『サクラの植樹式（合同）』



『日本舞踊（エレバン言語大学）』



『ソーラン節（合同）』



『アルメニアのダンス（合同）』



『料理紹介（香川大学）』



『料理紹介（エレバン言語大学）』

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

本プロジェクトは、二つの地域イベントに関わりました。

1つ目は8月4日に高松サンプオートで行われた「瀬戸の都 高松フォーラム 2012」に参加したことです。ブースを借りて、アルメニアという国を紹介するコーナー、アルメニアの学生たちへのメッセージを書くコーナーをつくらせて頂きました。

アルメニアという国を知る人はいませんでした。地域の方々は非常に興味を持って下さっているようでした。もちろん、そこで書いて頂いたメッセージは、交流のときにアルメニアの学生の皆さんに渡しました。

2つ目は、12月22日に坂出市で行われた「光輝里フェスティバル」に参加したことです。「光輝里フェスティバル」は坂出市内の高校生が主となって、坂出市の冬の祭りの内容を計画するものです。今年は「世界とのつながり」をテーマとしていたので、坂出の高校生と地域マネジメント研究科の方々と協力して、中国やドイツの料理を紹介したり、SNS を使ってベトナムやアルメニア、オーストラリアとの交流の機会を作ったりしました。各国の料理も全部食べて頂き、SNS を使った交流にも積極的に話しに来る人がたくさんいらっしゃいました。



『高松フォーラム①』



『高松フォーラム②』



『光輝里フェスティバル（坂出）』



『光輝里フェスティバル（アルメニア）』

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

本プロジェクト事業を通じて、コミュニケーションの大切さを実感しました。プロジェクト期間中、授業の宿題提出やプライベートな用事のスケジュールが重複し、気持ちがいっぱいになってしまう時もありました。しかし、そんなときだからこそ、まわりのメンバーに対して、誠実に向き合うことが大切だと思いました。苦しかったですが、その分イベントを成功裡に終えたときの達成感は素晴らしいものでした。

また今回の経験で、計画性がとても大切なことだということも実感しました。今回予算を組む上で予定費用を考えることも、他の団体と協力する上で進捗報告や情報共有することも予想以上に大変でした。次年度以降の実施にあたり、メンバーが入れ替わるといった現実を考えると、計画を立てて臨むことと情報共有が今後のプロジェクトの実行において肝要だと認識するようになりました。

6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

本プロジェクト事業を通して、いろいろな人にお世話になりました。

香川大学大学院地域マネジメント研究科 OB の片岡伸忠様、地域マネジメント研究科の長尾敦史様には、今回の交流のきっかけを与えて頂き、その方向性を定めて下さるとともに、多くのご指導、並びにご助言を賜りました。また、エレバン言語大学の日本語教師である長谷川有彦様とその妻リリット様には、終始アルメニア側での計画や準備にご尽力頂きました。最後に、香川大学教職員の方々、エレバン言語大学教職員の方々、並びに多くの地域住民の方々には、ご指導と多大なご協力を頂きました。

多くの支えてくれる人がいて私たちはここまで来ることができたので、その人たちへの感謝を忘れることなく、これからも関係を大切にしていきたいと思いました。貴重な体験をさせて頂いたと日を追うごとに実感致します。この度、香大生の夢チャレンジプロジェクト事業のご支援を頂きましたことに心より感謝申し上げます。

今回、アルメニアに交流に行き、アルメニアの学生たちが日本や日本の文化にすごく興味を持っていてということを実感しました。今後については、現在アルメニアの方々と話し合い、1) 公共スペースに植樹して桜並木をつくる、2) 合同で映画をつくる、3) アルメニアから日本に学生が訪問することなどを考えています。

7. 実施メンバー

代表者 田岡 宏大（工学部1年）
構成員 宮武 祐希（教育学部1年）
池田 佳夫（地域マネジメント研究科1年）
本田優有希（地域マネジメント研究科1年）
市川 明宏（地域マネジメント研究科2年）